

第1回藤沢市住宅都市地域コミュニティ調査委員会議事要旨

1 日時

2016年7月27日（水）午後2時30分から午後4時まで

2 場所

湘南NDビル6階6-1会議室

3 出席委員

大江委員長，松本副委員長，宮垣委員，倉持委員，手塚委員，岩崎委員，金子委員，高梨委員，本田委員（代理出席）

4 議事

議事に先立ち，委員会設置運営要領の確認並びに委員長及び副委員長の選出を行った。

(1) 会議の公開について

事務局から資料2に基づき，会議傍聴要領及び会議の公開に係る事務局案について説明し，委員長採決の結果，全会一致で公開とすることが決定された。

（質疑等）

委員 本委員会の開催及び議事等に係る周知，情報提供の方法についてはどのように対応しているか。

事務局 市ホームページによる周知，情報提供を中心に行っていく。議事内容についても要旨をまとめ，ホームページに公開することを予定している。

(2) 調査研究手法について

事務局から資料3，資料4-1，資料4-2に基づき，調査の目的，仮説，検証手法等の考え方について説明した。質疑の後，調査研究手法については，委員長及び事務局に一任する旨が決定された。

（質疑等）

委員 片瀬地区の対象地域について，江の島を除くとしているが，どのような経緯か。

事務局 観光地としての要素が大きいため，本調査趣旨の「住宅都市地域」としての定義を尊重したものである。地区での意向，調整結果を尊重

することとしたい。

委員 資料4-1の4ページにおいて、小規模多機能施設の状況が記載されているが、湘南大庭地区にある「ぐるんとびー」が非常に面白い地域づくりに取り組んでいる。事業を進める上で参考になると思うので、追加した方が良い。

事務局 ご指摘のとおり対応する。

委員 資料3の4ページにある研究成果については、政策的な要素と事業的な要素が並列されている。これらについては市の施策、計画等へ反映されることを想定しているか。

事務局 地域包括ケアシステム、ロボット産業分野の推進、ソーシャルキャピタルの醸成等は、今後の政策背景として位置づけられるものと想定している。また、コミュニティの醸成等については、東京2020オリンピック・パラリンピックの機会を捉えた発展も見据えている。

委員 調査のイメージとしては、集合住宅地、戸建て住宅地等の住生活環境の特徴に応じた課題把握と対応等を実証し、他の地域に応用するためにモデリングしていくことで良いか。

事務局 集合住宅地と戸建て住宅地での違いを想定し、ご指摘のとおり対応することを想定している。

委員 住居形態の違いによってコミュニティ形成が融合的なのか、選択的なのかを分析していく必要がある。また、コミュニティの階層についても見ていく必要があるものとする。

委員 資料3中2ページの仮説2について、ソーシャルキャピタルの構築においては担い手として様々な主体があると考えられるが、その中でコミュニティソーシャルワーカー（CSW）に限定している理由はあるか。また、仮説4については、空き家問題や商店街活性化のようなものをイメージしているか。

事務局 仮説2については、地域包括ケアシステムの第2層である地域に視点を置いた調査研究を進めるに当たり、その担い手として大きな役割を持つCSWに主眼を置いている。ヒアリング調査等の中で、その他の主体についても幅広く捉えていきたい。仮説4については、この調

査を住宅政策に反映させるに当たり、一種低層住居専用地域において、法令の範囲内で、商店等が地域コミュニティにおいて果たすことができる役割、機能等の可能性について検討することを予定している。

委員 藤沢市におけるCSWの配置状況はいかがか。

委員 今年度から藤沢市の事業を社会福祉協議会が受託し、モデル地区として、鶴沼、六会、湘南大庭の3地区に、社会福祉協議会の職員をCSWとして配置している。4月から活動を開始し、現在は地域での関係性、信頼性の構築を図っているところである。

事務局 市の居場所づくりの取組である「地域の縁側」事業にも大きな役割を果たしており、CSWを起点に、地域におけるコミュニティ構築が図られることを想定、期待している。ヒアリング等により課題を把握し、モデリングによる他地域の横展開を進めていきたい。

委員 調査対象を課題の多い湘南大庭と片瀬の2地区にするのは良く分かるが、この2地区にはないが、他の地区にある施設や居場所というものも考えられる。調査対象としては、そうした場所も含めていくべきと考えるがいかがか。また、藤沢市では重層的にサービスを提供しているため、今回の調査対象を高齢者等のみとせず、例えば、子ども、学校、地域、介護など、様々な方へインタビューし、成功要因の分析等を調査に含めていくべきと考える。

委員 対象の2地区以外での特徴的な活動、良好な活動事例、また実態としてCSWとして機能している市民等も調査対象に含めていただきたい。

事務局 各地区で特徴的な活動を行っているので、社会福祉協議会の調査等を参考にしながら、把握し、対応していきたい。

委員 仮説検証については、相当のマンパワーが必要かと思う。市が実施していくか。また、仮説検証においては、主としてヒアリング調査を採用するとのことであるが、実際に携わっている人へのヒアリングが多くなるものと想定される。可能な限り、参加者、利用者への調査も行うべきと考える。

事務局 検証作業は基本的には市で実施する。可能であれば学識委員と関係

する学生等にも協力をお願いしたい。仮説検証においては参加者の意識が重要であるので、参加者も含めたヒアリングも実施する。また、他事業での意識調査の査読、分析や、新たな意識調査の実施も検討していきたい。

委員 資料3中2ページの「2現状把握」について、人口推計等は既に把握している数値か。

事務局 湘南大庭地区と片瀬地区についても、平成22年国勢調査結果を基にした将来人口推計によるものである。ただし、町丁目別には推計を行っていないため、小学校区単位での推計はできない。一方で、湘南大庭地区については、小学校区単位での現状把握を進めたいと考えており、推計範囲と現状把握の単位が異なることから、一定の整理を図りながら調査を進めることが必要であると考えている。

委員 湘南大庭地区は様々な取組を進めているが、それで充足しているとは考えていない。他地域での成功事例等を地域の方に知っていただき、今後のまちづくりに生かしていきたい。

委員 今後の方向性を示唆していただく際には、地域にとって分かりやすい形で示していただきたい。

委員 資料3中2ページの仮説3について、ロボット活用の具体的なスケジュールはあるか。

事務局 今後、地区と調整しながら、様々なイベントにおいて活用方法等の検証をしたい。

委員 イベントにおいて、単にロボットを設置するだけでは有効な効果を発揮することはできない。イベントのスケジュール内容等が重要となるため、事業計画を立案に協力させていただきたい。

委員長 様々なご意見をいただいた。これらの意見を踏まえ今後の事業内容を調整したいと思う。事業等の調整については、委員長と事務局にご一任いただきたい。

(3) 調査研究スケジュールについて

事務局から、資料5に基づき調査研究の概要スケジュールについて説明した。
(質疑等)

委員 仮説調査の対象範囲が仮説ごとに異なっているため、整理すべきである。

事務局 整理し、適切に対応する。

委員 課題把握手法としてのアンケートでは、事業趣旨から一番回答していただきたい要支援者、孤立者には届かないことが多い。そうすると、セーフティネットや地域包括ケアシステムの構築について、調査が有効に効いてこないなので、アンケートについては丁寧な手法で行ってほしい。

委員長 現在、調査内容が広めに書いてあるが、もう少し焦点を絞って行ったほうが、重要な個所に力をかけられると思う。ご意見も踏まえながら対応する。

(4) 今後の委員会日程について

第2回委員会については、11月中下旬を目途に調整する。

以 上